

経営比較分析表（令和4年度決算）

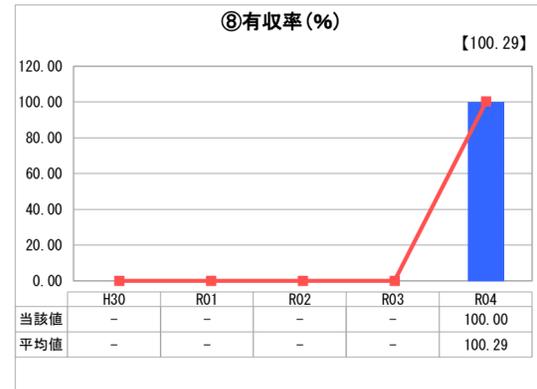
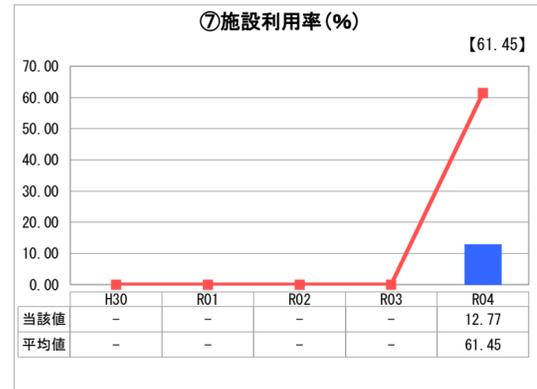
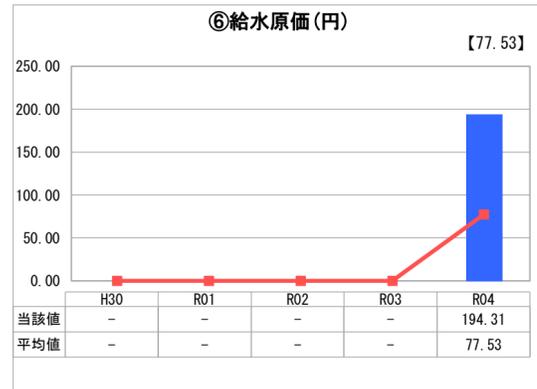
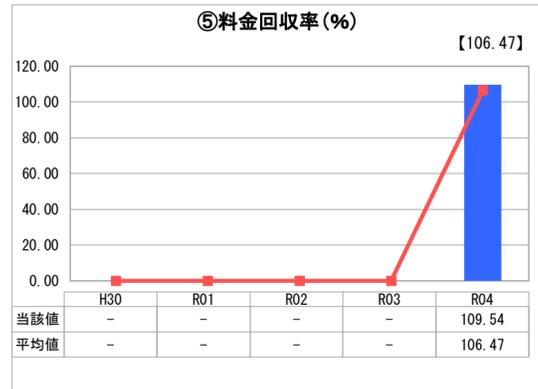
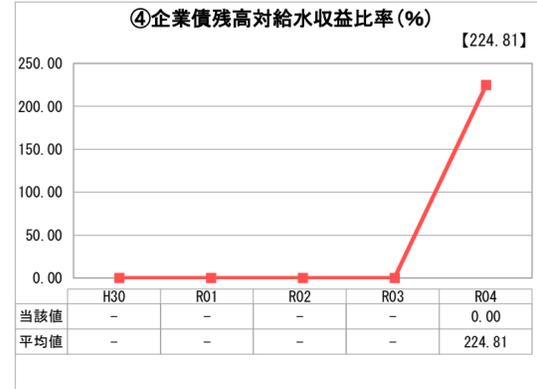
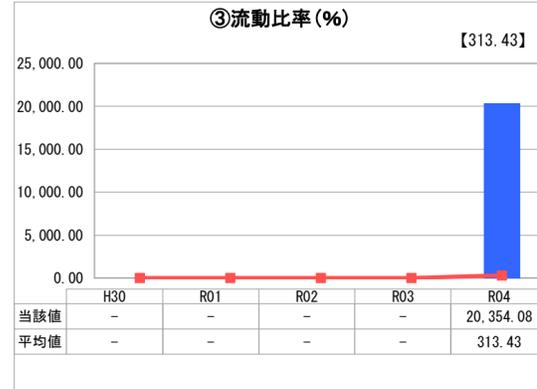
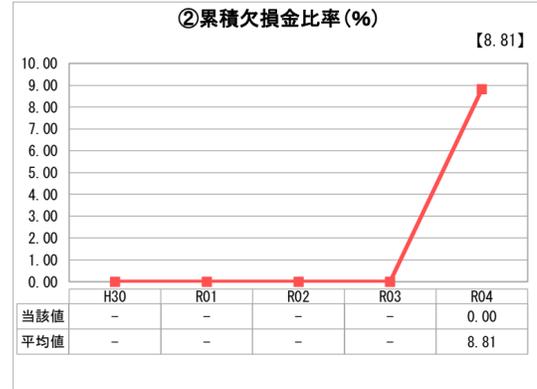
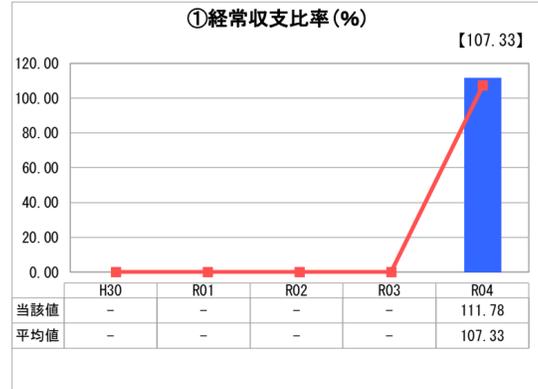
長野県 飯島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	99.95	5.48	0	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,078	86.96	104.39
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
257	0.01	25,700.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

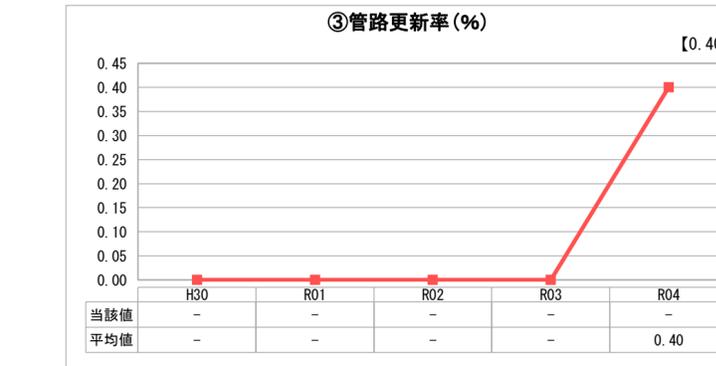
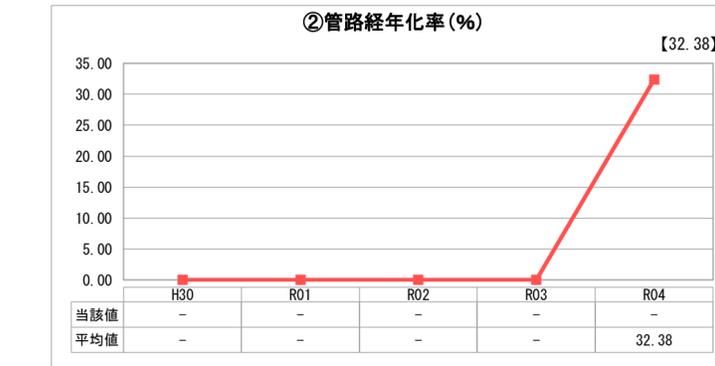
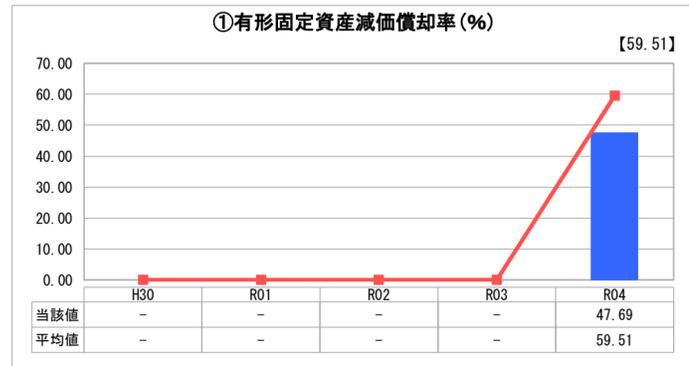
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率について、100%以上で経常損益は黒字となりました。
 ② 本年度の累積欠損金の計上はありません。
 ③ 流動比率について、用水供給事業だけで見ると高水準となっておりますが、末端給水事業と共有している負債もあるため、両事業で注視していく必要があります。末端給水事業では老朽施設の更新による投資に現金が必要となる一方、用水供給事業の給水範囲拡大で財源の確保に努めていきます。
 ④ 企業債残高対給水収益比率については、用水供給先への連絡管布設に係る起債発行を行っていないためありません。
 ⑤ 料金回収率については、類似団体の平均と比べ高い水準となっております。今後、用水供給範囲を拡大していきますが、用水供給に係る費用を賄っているか料金設定が適切か、注視していく必要があります。
 ⑥ 人件費や修繕費、施設運転経費等、末端給水事業と共有している費用もあり、類似団体よりも高くなっています。物価高騰により経常費用も増加傾向であるため、末端給水事業とともに効率性の高い経済的な手法を検討し、費用削減に努めます。
 ⑦ 施設利用率について、令和4年度から近隣事業体へ用水供給を段階的に開始したため、初年度の令和4年度は類似団体に比べ低い水準となっております。令和6年度まで段階的に予定している用水供給先へ給水範囲を拡大していくため、後は利用率の向上が見込まれます。
 ⑧ 有収率について、用水供給先へ供給した量に応じて請求を行っているため、有収率は概ね100%となりました。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産償却率について、類似団体平均値より低い数値となっておりますが、末端給水事業と共用の施設の老朽化が進行を続けています。浄水場等の大規模施設の改修を控えているため、必要な更新を計画的に行っていく必要はあります。
 ② 管路経年率については、法定耐用年数を経過した管路(連絡管)はありません。
 ③ 管路更新率について、当該年度に用水供給用の連絡管を敷設したが、更新した管路はありません。

2. 老朽化の状況



全体総括

飯島町水道用水供給事業については、従来の末端給水事業での配水能力に余裕があるため、水不足で悩む近隣自治体へ令和4年度から用水供給を開始しました。これにより当町における人口減少に伴う料金収入の減少を抑えることにつなげていきます。
 当町と近隣自治体の堺に3箇所、用水供給用の連絡管を接続し、令和4年度までに2箇所まで供給を開始しています。令和6年度までに3箇所目を接続し、近隣自治体内での水廻しの切替等することで段階的に供給範囲を拡大していきます。
 流動比率、給水原価ともに高い水準にありますが、従来の末端給水事業と共用の施設や薬品費、動力費等の費用があるため各事業単独での経営比較分析と同時に両事業併せた経営比較分析も行っていく必要があります。